

令和5年度 新潟市農業活性化研究センター試験成績書

研究課題	秋冬期における一,二年生草花の展示栽培（アグロステンマ）
背景・ねらい	新潟市では晩秋から早春にかけて出荷できる切花品目が少ないため、秋冬期における無加温ハウスで栽培が可能な品目・作型等を検討し、切花出荷期の拡大を図る。
担当者	海津 朋之, 山口 次郎, 渡邊 一彦
研究期間	2020～（4年目）

1 目的

秋冬期に無加温ハウスで栽培が可能であり、市場での需要が高い品目を展示栽培し、当該期に球根以外で種苗費が安く換金可能な草花類の新品目導入のための資料とすることを目的とする。当該品目は新規。秋播種春採花が一般的で、早春播種夏採花もハウスであれば可能とされる。

2 方法

(1) 試験場所：農業活性化研究センター内鉄骨ハウス4

(2) 供試品種：(4品種)

ギタゴ<タキイ>

桜貝<タキイ>

オーシャンパール<タキイ>

パープルクイーン<タキイ>

(3) 試験区の構成・規模

各品種各80株（40株×2反復）

(4) 耕種概要

ア 播種：7月10日

イ 定植：7月26日

ウ 栽植様式：畝幅80cm, 条間15cm, 株間15cm, 4条植え（33,333株/10a）

エ 施肥：基肥（kg/10a）N-P₂O₅-K₂O=15-15-15
追肥 生育の状況を見ながら適宜施用。

オ 電照：定植から日長延長（日没後～PM10:00）

カ 摘芯：なし

(5) 調査項目

採花日, 採花本数, 切花長, 莖径, 節数, 側枝数, 切花重

3 結果の概要（表1）

(1) 種子発芽は良好であったが、定植後、正常に生育しない株が全品種で見られ、多くの欠株が発生した。

(2) 到花日数は全品種で70日前後となり、採花は9月中旬となった。

(3) 切花長は平均で、ギタゴがもっとも長く54.9cm、桜貝が40.8cmと最も短かった

4 考察とまとめ

本試験では、本来秋播種春採花（もしくはハウスで早春播種夏採花）のアグロステンマを夏播き秋冬咲きの作型で栽培した。生育しない欠株が多く、夏期の高温の影響を大きく受けたことが推察できる。切花重量も3g前後と軟弱で扱いが難しく、採花の際の作業性は低い。

表1 切花調査結果

品種名	初期欠株率 (%)	一株当 り採花数	採花日			到花日数 (日±S.D.)
			平均	開始日	終了日	
ギタゴ	50.0	4.23	9/17	9/12	9/21	69.8 ±2.6
桜貝	55.0	5.39	9/18	9/12	9/21	70.0 ±2.6
オーシャンパール	32.5	3.30	9/16	9/12	9/21	68.7 ±2.7
パープルクイーン	60.0	0.53	9/20	9/19	9/21	72.4 ±0.9

品種名	切花長 (cm±S.D.)	切花重 (g±S.D.)	茎径 (mm±S.D.)	節数 (個±S.D.)	側枝数 (本±S.D.)
ギタゴ	54.9 ±6.9	3.4 ±1.4	1.4 ±0.3	7.5 ±0.8	2.7 ±1.2
桜貝	40.8 ±6.4	2.4 ±1.0	1.1 ±0.3	6.1 ±0.8	2.5 ±1.1
オーシャンパール	45.6 ±4.3	2.9 ±1.0	1.5 ±0.2	6.8 ±0.7	2.0 ±0.8
パープルクイーン	44.4 ±1.8	3.3 ±0.4	1.3 ±0.2	8.0 ±0.0	2.6 ±0.7

(n = 20)

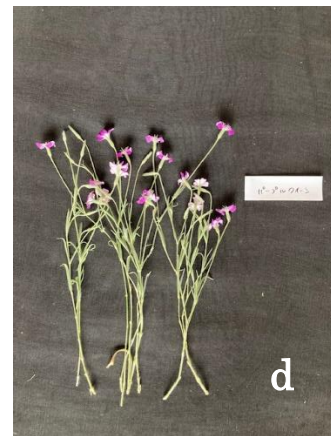
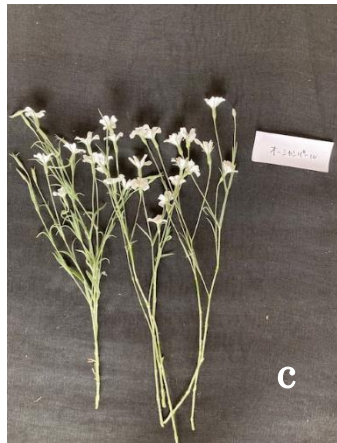
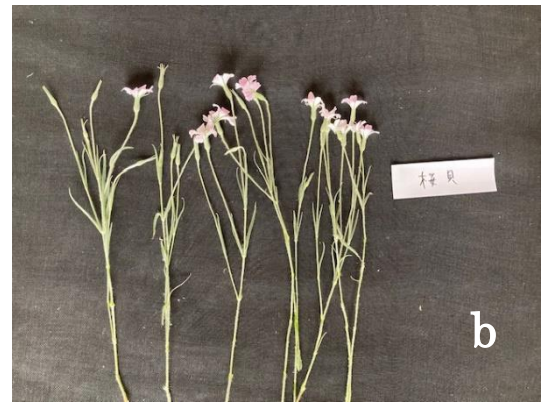
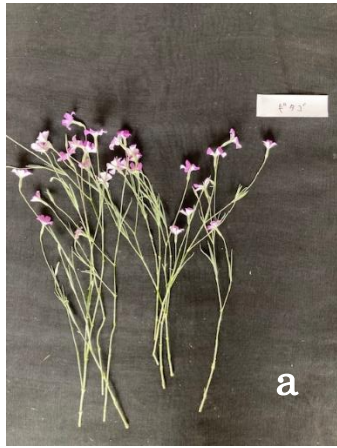


図1 アグロステンマ切り花写真
(a ギタゴ, b 桜貝, c オーシャンパール, d パープルクイーン)



図2 圃場の様子